



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 42

Aug. 2011

今号のトピックス

9月17日(土)に今年度の総会を執り行ないます(於:東京大学).
皆様ご出席ください.

学会賞候補者の募集が始まりました(〆切は9月30日).

学会講演会は12月17日(土)に開催します(於:大阪学院大).

次回大会(2012年3月)は大阪学院大学で行われます.



目次

緊急集会報告『公開シンポジウム「緊急集会:被災した自然史標本と博物館
の復旧・復興にむけてー学術コミュニティは何をすべきか?」』…………… 2

日本植物分類学会第10回大会義援金協力のお礼…………… 3

お知らせ

2011年度総会開催のお知らせ…………… 3

2011年度総会における審議事項…………… 3

評議員会開催のお知らせ…………… 8

2011年度日本植物分類学会賞(学会賞および奨励賞)の受賞候補者の募集………… 8

2011年度日本植物分類学会講演会のお知らせ…………… 9

2012年度日本植物分類学会大会(第11回)のお知らせ…………… 9

書評…………… 10

会員消息…………… 12



緊急集会報告

公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて—学術コミュニティは何をすべきか？」

会長 戸部 博

日本学術集会公開シンポジウム「緊急集会：被災した自然史標本と博物館の復旧・復興にむけて学術コミュニティは何をすべきか？」が2011年6月6日(月)13:30-17:10 学術会議講堂で開催された。

東日本大震災による自然史標本及び収蔵施設の救済を支援し、将来にわたり標本と施設を災害から守るための対策を提言するための意見交換をおこなうことを目的としたものである。平日にも関わらず、参加者は157名(NHK、朝日新聞、毎日新聞、日本経済新聞の報道関係者含む)に及んだ。主催者側から西田治文氏の開会あいさつ、真鍋真氏の趣旨説明に続き、文化財レスキューの現状説明から始まって、岩手県、宮城県、福島県の被害状況と進行しつつあるレスキュー作業の紹介があった。まず考えさせられたのは、国によるレスキューは文化庁による文化財、民族資料、歴史資料が対象になっており、自然史資料は対象外か、あるいは補足的であったことである。背景には、文化財は文化庁の管轄、自然史資料は文部科学省管轄という縦割りがあつた。しかし、社会的支援を受けるには、自然史標本の重要性を社会に知ってもらうことが大切で、私個人として、そのための日常活動が十分だったかという反省がある。

個々の講演について気のついたものを幾つか紹介すると、吉崎誠氏からは岩手県山田町へ昨年末から今年初めに寄贈した80,000点の海藻(押し葉)標本と2,500本の液浸標本が仮収蔵した建物とともに、土台を残して完全に流出してしまったという無残な内容の報告があつた。研究者個人が長い研究活動のなかで収集してきた標本をどのように継承し、その後の研究に生かすために保存すべきか、これからも起こりうる難しい問題が投げかけられた。岩手県からは幅広い資料の被害が報告されていた。建物がほぼ水没した陸前高田市立博物館の15,000点の植物標本が回収され、うち7,000点は国内に修復依頼に送り出されているという報告はまだ救いであつた。

同時に、震災後3ヶ月近くたつて、まだ表に出ていない被災情報がある地域もありそうだということ、これを集めるためには日ごろからの交流(ネットワーク)が重要であること、いまだ全くボランティアによるレスキューがないところもあること、自然史標本のレスキューマニュアルはないことなど、さまざまな問題点も浮かび上がった。

こうしたことへの対策として、施設情報(博物館、美術館、図書館など)を集積したデータベースなど柔軟なネットワークを将来のために今から準備しておくこと、そのために、特に、小さな地域博物館をつなぐ学芸員による日ごろからの学術交流が重要であることへの認識が、少なくとも参加者の間には強まったのではないだろうか？ 博物館は地域のコミュニティであり、地域の人による地域の自然史標本が収集されている。地域博物館のレスキューは地域コミュニティのレスキューでもある(講演発表者の1人の受け売り)、それならばもっと多くの地域に博物館が必要ではないかと感じた(現状でも自然史標本を受け入れる博物館のない空白県も多い)。そのためにも学会として、学会員個人として、自然史標本の重要性をまず

社会に広く知ってもらおうこと、そのための日ごろの活動が大切ではないだろうか？ 緊急集会を通して、今回の被災から将来のためになにをすべきか考えさせられるよい機会であった。

日本植物分類学会第10回大会義援金協力のお礼

3月の日本植物分類学会第10回大会は東日本大震災の影響で、要旨集の発送をもって成立とすることになりましたが、その時にお送り頂いた懇親会費などを、有志のかたから大震災復興の義援金としてお預かりしました。おかげさまで613,307円の暖かい善意が集まりました。これに関しては、植物分類学会という立場から、今回の大震災で直接被災され、尊い人命や施設はもとより、多くの貴重な植物標本をも損失・損傷された機関の復興に直接使って頂こうとの考えから、岩手県の陸前高田市博物館の復興義援金としてお使いいただくよう、全額を陸前高田市教育委員会に寄付させて頂きました。日本植物分類学会第10回大会準備委員長として、ここに皆様に篤く感謝するとともに、被災者の皆様のより早い復興をお祈り申し上げます。

日本植物分類学会第10回大会準備委員長
岩科 司

お知らせ

2011年度総会開催のお知らせ

庶務幹事 西野 貴子

今年3月につくばにて開催を予定し、延期となっていた総会を下記のとおり開催します。会員の皆さまにはご参集いただきますようよろしくお願い致します。なお、当日は会場の東京大学駒場キャンパスにおいて日本植物学会第75回大会が開催されております。

日時:2011年9月17日(土) 12時~13時

会場:東京大学駒場キャンパス 15号館1階104教室

議事:2010年度事業報告および決算報告, 2011年度事業計画および予算案の審議など

(会場は飲食可ですので、昼食をお持ちいただいても結構です。)

2011年度総会における審議事項

庶務幹事 西野 貴子, 前庶務幹事 東 浩司

9月17日に開催される総会において、以下の議案が審議されます。会員各位のご出席をお願いします。

- 【1】2010年度事業報告(4ページ参照):ニュースレターNo.40号中の記事を再掲
- 【2】2010年度決算報告(5ページ参照):ニュースレターNo.40号中の記事を再掲
- 【3】2011年度事業計画(6ページ参照):ニュースレターNo.40号中の記事を修正後再掲
- 【4】2011年度予算案(7ページ参照):ニュースレターNo.40号中の記事を修正後再掲
- 【5】その他(名誉会員, 監事承認など)

【1】 2010 年度事業報告**(1) 集会等の開催**

・学術集会, 講演会, 研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第9回大会)を愛知教育大学で開催した(3月26~28日)(ニュースレターNo.37で報告)。

2010年度野外研修会を熊本県阿蘇地域で開催した(8月20~22日)(ニュースレターNo.39で報告)。

2010年度講演会を大阪学院大学で開催した(12月18日)(ニュースレターNo.40で報告)。

・総会, 評議員会

年次総会を年次学術集会に合わせて開催した(3月27日)(ニュースレターNo.37で報告)。

評議員会を1回(ニュースレターNo.37で報告), メール評議員会を1回(ニュースレターNo.40で報告)開催した。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第60巻3号, 第61巻1-2号(計3冊)を発行した。

和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第10巻1-2号(計2冊)を発行した。

・ニュースレター『日本植物分類学会ニュースレター』36-39号(計4冊)を発行した。

(3) 委員会活動

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一委員会および第二委員会

・植物データベース専門委員会

・学会賞選考委員会(ニュースレターNo.40で報告)

・大会発表賞選考委員会(3月に発足, ニュースレターNo.37で報告)

・論文賞選考委員会(ニュースレターNo.40で報告)

(4) 表彰

・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なった(ニュースレターNo.36で報告)。

・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行なった(ニュースレターNo.37で報告)。

・日本植物分類学会論文賞の授与を行なった(ニュースレターNo.36で報告)。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

・学会連合等への参加・連携を行なった: 日本学術会議, 植物分類学関連学会連絡会, 自然史学会連合, 日本分類学会連合。

・日本・韓国・中国合同国際シンポジウム「東アジアの植物多様性と保全 2010」をソウル大学(韓国ソウル)において開催した(2010年8月20-21日: ニュースレターNo.39で報告)。

(6) その他

・学会刊行物のバックナンバー等を販売した。

・植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ, メーリングリスト等で提供した。

・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換を行なった。

・植物分類学関連本の編集を行った(継続)。

【2】2010 年度決算報告

| 収入の部 | 単価 | 数 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
|--------------------------|--------|------|-----------|---------|-------------|
| 会費 | | | | | |
| 一般会員 | 5000 | 815 | 4075000 | 3801165 | 273835 |
| 学生会員 | 3000 | 80 | 240000 | 173000 | 67000 |
| 団体会員 | 8000 | 27 | 216000 | 184000 | 32000 |
| カラー代(Chaveerachら) | | | 0 | 20000 | △ 20000 |
| バックナンバー販売 | | | 100000 | 184500 | △ 84500 |
| 命名規約販売 | | | 30000 | 72620 | |
| 利息 | | | 20 | 8691 | △ 8671 注1 |
| 雑収入 | | | 50000 | 187538 | △ 137538 注2 |
| 小計 | | | 4711020 | 4631514 | 79506 |
| 支出の部 | 単価 | 数 | 予算 | 決算 | 予算との差異 |
| 大会補助費 | | | 100000 | 100000 | 0 |
| 講演会補助費 | | | 30000 | 45760 | △ 15760 注3 |
| 出版物印刷費 | | | | | |
| APG vol.60(3), 61(1,2,3) | 650000 | 4 | 2600000 | 1963710 | 636290 注4 |
| 分類 vol.10(1,2) | 500000 | 2 | 1000000 | 995610 | 4390 |
| ニュースレターNo.36-39 | 55000 | 4 | 220000 | 211800 | 8200 |
| 英文校閲費 | | | 60000 | 42485 | 17515 |
| 出版物送料 | | | | | |
| APG送料 | 80 | 4400 | 352000 | 232089 | 119911 注4 |
| 和文誌送料 | 80 | 2000 | 160000 | 149563 | 10437 |
| NL送料 | 60 | 4000 | 240000 | 108408 | 131592 注5 |
| 会議費 | | | 30000 | 48154 | △ 18154 注6 |
| 学会賞表彰経費 | | | 60000 | 59350 | 650 |
| 自然史学会連合負担金 | | | 20000 | 20000 | 0 |
| 分類学会連合負担金 | | | 10000 | 10000 | 0 |
| 事務局管理費 | | | | | |
| 消耗品費 | | | 50000 | 24024 | 25976 |
| 交通費 | | | 200000 | 68920 | 131080 |
| アルバイト賃金(発送代行料を含む) | | | 370000 | 219610 | 150390 |
| 封筒等印刷費 | | | 30000 | 0 | 30000 |
| 通信費(小包手数料を含む) | | | 70000 | 49520 | 20480 |
| 手数料・その他 | | | 25000 | 31430 | △ 6430 |
| 自動振替集金代行基本料 | | | 3150 | 3150 | 0 |
| 自動振替口座確認手数料 | 190 | 126 | 23940 | 22407 | 1533 |
| 自動振替新規手数料 | 105 | 10 | 1050 | 0 | 1050 注7 |
| レンタルサーバー使用料 | | | 15000 | 13860 | 1140 |
| 予備費 | | | 288880 | 73495 | 215385 注8 |
| 合計 | | | 5959020 | 4493345 | 1465675 |
| 単年度収支 | | | △ 1248000 | 138169 | △ 1386169 |
| 前年から繰越金 | | | 9495929 | 9495929 | 0 |
| 次年度への繰越 | | | 8247929 | 9634098 | △ 1386169 |

注1: 郵便定期預金解約に伴う利息, 特別会計の利息を含む

注2: 著作権使用料63172円, 会計の所持金と書面金のずれなど

注3: 講演会アルバイト費, 講師旅費

注4: APG61(3)は2011年度へ繰り越し

注5: NL36とNL38は和文誌と同時発送

注6: 会議室代, お弁当代

注7: 自動振替顧客管理のネット管理化に伴い新規登録が会計作業となり新規手数料がなくなったため

注8: 選挙費, 旧分類地理学会会計ノート電子化謝金

特別会計

| 収入 | 2010年度予算 | 2010年度決算 | 予算との差異 |
|----------|----------|----------|--------|
| 前年度繰越金 | 2196011 | 2196011 | 0 |
| 合計 | 2196011 | 2196011 | 0 |
| 支出 | | | |
| 次年度への繰越金 | 2196011 | 2196011 | 0 |
| 合計 | 2196011 | 2196011 | 0 |

【3】 2011 年度事業計画

(1) 集会等の開催

・学術集会, 講演会, 研修会

年次学術集会(日本植物分類学会第10回大会:科博(つくば)(3月19~21日)を開催する。

2011年度講演会を開催する。

2011年度野外研修会を開催する。

日韓中合同シンポジウムを年次学術集会に合わせて開催する。

・総会, 評議員会

年次総会を開催する(9月17日)。

評議員会を開催する(9月16日)。

(2) 出版物の刊行

・学会誌の発行

英文誌『Acta Phytotaxonomica et Geobotanica』第61巻3号および第62巻1-3号(計4冊)を発行する。

和文誌『分類 [日本植物分類学会誌]』第11巻1-2号(計2冊)を発行する。

・ニューズレター『日本植物分類学会ニューズレター』40-43号(計4冊)を発行する。

(3) 委員会活動

以下の委員会を組織し, 目的に沿って活動する。

・絶滅危惧植物・移入植物専門第一および第二委員会

・植物データベース専門委員会

・学会賞選考委員会

・大会発表賞選考委員会

・論文賞選考委員会

・国際植物命名規約邦訳委員会(今年度より再編成)

(4) 表彰

・日本植物分類学会賞(学会賞・奨励賞)の授与を行なう。

・日本植物分類学会大会発表賞の授与を行なう。

・日本植物分類学会論文賞の授与を行なう。

(5) 国内外の関係学術団体との連携・協力

・国内学会連合等への参加・連携を行なう: 日本学術会議、植物分類学関連学会連絡会、自然史学会連合、日本分類学会連合など。

・The Korean Society of Plant Taxonomist (KSPT), および Taxonomy and Evolution Division, the Botanical Society of China (BSC)と連携する。

(6) その他

・学会刊行物のバックナンバー等の販売を行う。

・植物分類学関連情報(学術集会, 研究動向, 出版物, 公募)を収集し, ニュースレター, ホームページ, メーリングリスト等で提供する。

- ・学会刊行物の国内外の研究機関への寄贈と交換をする。
- ・植物分類学関連本の編集・出版を行う。

【4】2011年度予算案

| 収入の部 | 単価 | 数 | 予算 | 前年度予算との差異 | |
|-----------|------|-----|---------|-----------|----|
| 会費 | | | | | |
| 一般会員 | 5000 | 785 | 3925000 | △ 150000 | 注1 |
| 学生/海外会員 | 3000 | 100 | 300000 | 60000 | 注1 |
| 団体会員 | 8000 | 27 | 216000 | 0 | |
| バックナンバー販売 | | | 100000 | 0 | |
| 命名規約販売 | | | 20000 | △ 10000 | |
| 利息 | | | 20 | 0 | |
| 雑収入 | | | 50000 | 0 | |
| 合計 | | | 4611020 | △ 100000 | |

支出の部

| | | | | | |
|--------------------------|--------|------|-----------|----------|----|
| 大会補助費 | | | 100000 | 0 | 注2 |
| 講演会補助費 | | | 50000 | 20000 | 注3 |
| 出版物印刷費 | | | | | |
| APG vol.61(3), 62(1,2,3) | 650000 | 4 | 2600000 | 0 | |
| 分類vol.11(1,2) | 500000 | 2 | 1000000 | 0 | |
| ニュースレターNo.40-43 | 55000 | 4 | 220000 | 0 | |
| 英文校閲費 | | | 60000 | 0 | |
| 出版物送料 | | | | | |
| APG送料 | 80 | 4400 | 352000 | 0 | |
| 和文誌送料 | 80 | 2000 | 160000 | 0 | |
| NL送料 | 60 | 4000 | 240000 | 0 | |
| 会議費 | | | 50000 | 20000 | 注4 |
| 学会賞表彰経費 | | | 60000 | 0 | |
| 自然史学会連合負担金 | | | 20000 | 0 | |
| 分類学会連合負担金 | | | 10000 | 0 | |
| 事務局管理費 | | | | | |
| 消耗品費 | | | 50000 | 0 | |
| 交通費 | | | 100000 | △ 100000 | 注4 |
| アルバイト賃金（発送代行料を含む） | | | 300000 | △ 70000 | 注4 |
| 封筒等印刷費 | | | 250000 | 220000 | 注5 |
| 通信費（小包手数料を含む） | | | 70000 | 0 | |
| 手数料・その他 | | | 30000 | 5000 | 注4 |
| 自動振替集金代行基本料 | | | 3150 | 0 | |
| 自動振替口座確認手数料 | 190 | 126 | 23940 | 0 | |
| 自動振替新規手数料 | | | 0 | △ 1050 | 注6 |
| レンタルサーバー使用料 | | | 15000 | 0 | |
| 予備費 | | | 100000 | △ 188880 | 注7 |
| 合計 | | | 5864090 | △ 94930 | |
| 単年度収支 | | | △ 1253070 | | |
| 前年から繰越金 | | | 9570347 | | |
| 次年度への繰越 | | | 8317277 | | |

注1: 会員数見直しによる(名誉会員増, 海外会員を学生/海外へ移動)

注2: 第10回大会記念および日中韓国際シンポ補助を含む

注3: 演者交通費を一部負担

注4: 2010年度実績に合わせて変更

注5: 事務局移転に伴う封筒印刷

注6: 新規手数料がかからなくなったため

注7: 選挙がないため

特別会計

収入 2011年度予算 前年度予算との差異

| | | |
|--------|---------|---|
| 前年度繰越金 | 2196011 | 0 |
| 合計 | 2196011 | 0 |

支出

| | | |
|----------|---------|---|
| 次年度への繰越金 | 2196011 | 0 |
| 合計 | 2196011 | 0 |

【5】その他(名誉会員, 監事承認など)

総会にて提案・報告いたします。

評議員会開催のお知らせ

庶務幹事 西野 貴子

総会の開催に合わせ、下記のとおり評議員会を開催します。評議員、幹事会等の関係各位のご出席をお願い致します。

日時:2011年9月16日(金) 17時~19時

会場:東京大学駒場キャンパス 15号館1階104教室

総会議事と同様の内容、およびそのほかの審議が予定されています。内容等の詳細につきましては関係各位に別途ご連絡いたします。

会員の皆さまの中で、評議員会の審議事項等にご意見、ご希望などがございましたら、評議員、会長、幹事、各委員会委員長のいずれかにお伝えください。

2011年度日本植物分類学会賞(学会賞および奨励賞)の受賞候補者の募集

会長 戸部 博, 学会賞選考委員長 高宮 正之

以下の2つの賞の受賞候補者を募集します。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。候補者は、学会賞選考規定第2条に基づき、以下に該当する方です。

「日本植物分類学会賞」:植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10年以上継続して本会会員である者とする。

「日本植物分類学会奨励賞」:受賞年の4月1日において満38歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者(学生を含む)に授与する。受賞者の資格は、3年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1)どちらの賞への応募か(2)略歴(生年月日、学歴、職歴など)(3)調査・業績の概要(4)業績リスト(論文、著書など)と本学会の大会での発表記録をワード・ファイルあるいはA4用紙に記入して(書式は自由)お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mailでのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先: 〒860-8555 熊本市黒髪 2-39-1
 熊本大学大学院 自然科学研究科
 高宮 正之 宛
 e-mail: lycpod@aster.sci.kumamoto-u.ac.jp

応募締め切り日:平成 23 年 9 月 30 日

その他:両賞の受賞者は、2012 年春の第 11 回日本植物分類学会大会(於:大阪学院大学)において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

2011 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 岡崎 純子

平成 23 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただき、次のとおり開催いたします。演題など詳細につきましては次回のニュースレター(No.43)でご案内いたします。

【日時】2011 年 12 月 17 日(土)午前 10 時～午後 4 時 40 分

【講演会場】大阪学院大学・2 号館地下 1 階 2 号教室 (02-B1-02 教室)
 〒564-8544 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号(電話:06-6381-8434)

【会場までの行き方】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分
http://www.osaka-gu.ac.jp/p_student/index.html の「キャンパス案内」から「交通アクセス」をご覧ください。

【予定講演者】 東 浩司, 角野 康郎, 狩山 俊吾, 木場 英久, 山住 一郎

2012 年度日本植物分類学会大会(第 11 回)のお知らせ

第 11 回大会準備委員会委員長 高橋 晃

日本植物分類学会第 11 回大会(2012 年)は以下の通り開催する予定です。なお、大会の詳細および参加申し込み等のご案内は、次号のニュースレター(No.43)でお知らせします。

1. 会場 大阪学院大学 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号
2. 日程 3 月 22 日(木):各種委員会, 評議員会(於:京都大学)
 3 月 23 日(金)～24 日(土):
 口頭・ポスター発表, 総会, 学会賞・奨励賞受賞記念講演会, 懇親会など
 3 月 25 日(日):口頭発表, 公開シンポジウム

日本植物分類学会第 11 回大会準備委員会

連絡先: 兵庫県三田市弥生が丘 6 人と自然の博物館 高橋 晃
 Tel: 079-559-2001, Fax: 079-559-2019; e-mail: takahasi@hitohaku.jp
 (大会専用のメールアドレスは次号のニュースレターでお知らせします。)

なお、本件は 9 月開催予定の評議員会および総会で承認・報告を経て正式に決定いたします。

書評

日本の固有植物 (国立科学博物館叢書)

加藤 雅啓・海老原 淳／編 東海大学出版会／発行 ISBN:978-4486018971

定価 3,990 円 B5 判 503 ページ

— 固有植物について集められた圧巻のデータ量！ —

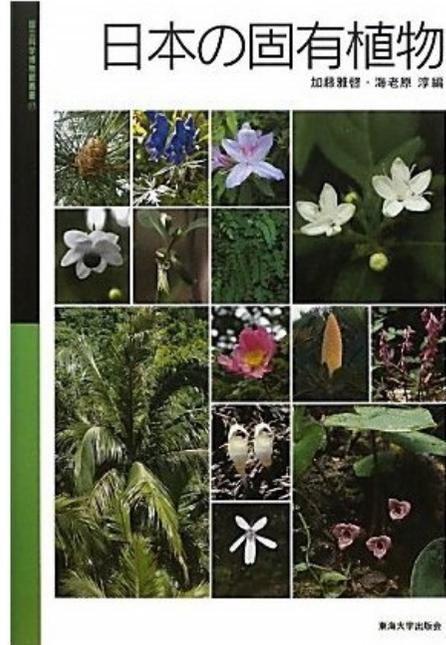
「あれ、よく見かけるこの種も実は日本固有種だったのか!？」

本書では、亜種や変種まで含めて約 2700 分類群にも及ぶ日本の固有植物全てが、膨大な標本調査の結果とともにまとめられている。4 部構成のうち、第 1 章の「固有植物の生物学」では、「固有種」の特徴やその歴史的背景について、最近の研究成果も含めた上で詳細に述べられており、固有種を対象にどのような研究が行われているのかを概観することができる。第 2 章の「日本の固有植物図鑑」では全ての固有種が科ごと属ごとに整理され、それぞれの分類群の専門家によって、その 1 つ 1 つの特徴が述べられている。代表的な種については美しい写真も多数掲載されており、これらの種が「日本にしか分布していない」という事実を考えると、その生物多様性の高さに改めて驚かされる。実際にぱらぱらとページをめくった時の最初の感想が冒頭の一文である。

後半の「日本固有植物目録」と「日本固有植物分布図」という 2 つの章のデータ量はまさに圧巻で、日本の全固有種の和名・学名と分布図が掲載されている。中でも合計 2491 枚の分布図は、他の図鑑で一般的な地域名ベースの形式ではなく、標本調査で得られた 1 点 1 点のデータが実際にプロットされている。日本の固有植物について網羅的にまとめた図鑑類はこれまでに無く、本書はこれからの日本の固有種研究にとっても大変重要な価値を持つと思われる。

唯一残念だったのは、私が研究対象としている固有種に私の写真を使っただけなかったことだろうか。もし次回があれば、ぜひ写真依頼をいただきたいものである(笑)

(岩崎 貴也, 東京大学大学院・総合文化研究科)



会費納入の減免について

・会員の権利と会費についての細則第 2 条 3 により、災害等に遭われた方の会費の減免を行うことができます。この規定の適用をご検討の方は庶務幹事(jimu@e-jsps.com)までご連絡ください。

<参考>

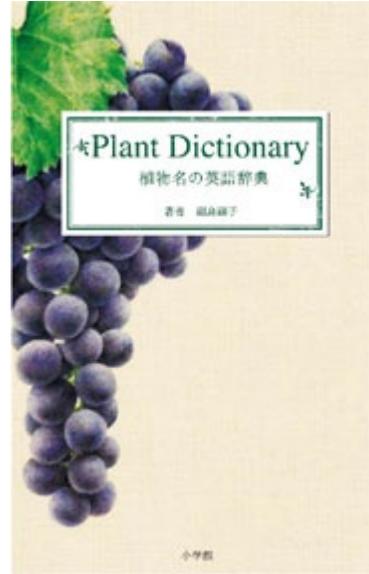
細則第 2 条 3 会員に災害などのやむを得ない事態が生じた場合には、評議員会の承認を得て、会長は会費の納入を減免することができる。

Plant Dictionary 植物名の英語辞典

副島 顕子／著 小学館／発行 ISBN: 978-4-09-506702-5
 定価 3,150 円 B6 変型判 286 ページ

— 植物の豆知識本としても使えます！ —

英語圏を旅行していて、店先で出会った耳慣れない呼称の植物について知りたい、あるいは英語話者との会話中、「あれ、あの植物について話したいのだけれど、英語ではなんて呼ばれているのだろう」と思った事はないでしょうか。そんな時にはこの辞典を手にとってみると良いかもしれません。本書では植物の英語一般名 2480 語について、それに対応する和名や学名が示されており、また巻末には和名からの逆引き索引も付属しています。さらには植物の名前を聞いた際に欧米人が連想するであろうこと、植物の生育環境や地域、文化的背景などに関する情報も盛り込まれているため、上述の様に目的をもって辞典を引くだけでなく、何の気なしにパラパラとページをめくだけでも新たな発見があります。サルトリイバラなど、鉤状のとげをもつ植物が“wait-a-bit(ちよつと待ってよ)”と呼ばれている事を皆さんはご存知でしたか？ 辞典としての役割はもちろんの事、植物の豆知識本としてもおすすめの一冊です。(山本 武能, 京都大学大学院・理学研究科)



会費納入はお済みですか？

- ・会費は前納制です。
- ・今年度分に関しては、未だ 3 割以上の方(約 300 人)が未納になっております。
- ・適正な学会運営のために、会費納入をよろしく願います。
 (金額, 振込先は次ページをご覧ください)
- ・なお、長期滞納者に対しては、規約第 10 条(2)に基づき、除名を行っております。ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。

<参考>

- 第 10 条 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、評議員会の議決を経て、会長はこれを除名できる。
- (1) (略)
 - (2) 会費を 1 年以上滞納したとき。

自動振替が便利ですよ！

会費納入に自動振替制度をご利用できます。

ご希望の方には自動振替依頼書をお送りいたしますので会計幹事までご連絡ください。